ホットな
福祉情報誌

社会福祉法人
福島県社会福祉協議会

はあとふる ふくしま

2018
6
June

「はあとふる・ふくしま」の作成経費の一部として、共同募金配分金および特別賛助会員の寄付金を使用させていただいております。

目の不自由な方のために「はあとふる ふくしま」は音訳版及び点訳版を作成しています。

特集 地域と共にある社会福祉法人を目指して
～社会福祉法人の公益的な取組～

今月の表紙

「農福連携」で笑顔があふれる仕事づくり

農作物の生産・加工・販売を行う社会福祉法人こころん。農場や直売所では障がい者がいきいきと活動し、地域の交流の場となった直売カフェはたくさんの笑顔があふれています。(詳しくは6ページでご紹介)

特集 ZOOM UP

地域と共にある社会福祉法人を目指して　～社会福祉法人の公益的な取組～

平成28年4月に施行された「社会福祉法等の一部を改正する法律」において、社会福祉法人による『地域における公益的な取組』が、法人の責務として位置付けられました。「地域共生社会」の実現に向け、社会福祉法人が自ら主体的に地域の課題に取組むことが求められている今、地域に果たす役割や地域課題と向き合う姿勢について、事例を交えてご紹介します。

地域共生社会を創る「公益的な取組」とは

社会福祉法が改正された背景には、少子・高齢化による社会構造の変化と、住民の福祉課題・生活課題の多様化があります。最近では、生活困窮世帯や子育て家庭の孤立、若年層のひきこもりなど、あらゆる世代にわたって複合的な課題を抱える世帯が増えています。さらには一人暮らしの高齢者のごみ捨て、買い物など、公的な福祉サービスの対象とならない、日常的な困りごとに悩んでいるケースも増えています。

地域社会や家族形態の変化により、誰にも相談することができずに、地域から孤立して、課題を深刻化させるケースも少なくありません。少子・高齢化が進み、人口が減少していく今の社会では、地域を支える担い手の不足も深刻化しています。

このような現状をふまえ、国は、地域に暮らす人たちが共に支え合い、困った人の課題を〝我が事（自分のこととして）〟として受け止め、自ら行動する住民を増やす『地域共生社会』を目指しています。その実現に向けて、公益性の高い社会福祉法人にも、公的サービスでは十分対応できない日常的な困りごとや地域の課題に対応するため、地域の拠点となり新しい仕組みを創出することが求められているのです。

地域とともにある社会福祉法人が、地域の生活課題や住民の困りごとを解決する仕組みを創る――。この取組みこそが、社会福祉法人による「地域における公益的な取組」です。

地域に必要な「公益的な取組」を推進するために

県内の社会福祉法人では、地域における法人の役割を自覚し、地域のためにこれまでも様々な活動を行ってきました。さらに今回の「公益的な取組」の責務化を受けて、社会福祉法人の専門性や特色を活かした取組みが各地域で始まっています。

しかしその一方で、「何に取組んでいいのかわからない」「取組んでみたが上手くいかない」といった、試行錯誤の最中にある社会福祉法人もあります。

「公益的な取組」において最も大切なことは、社会福祉法人自らが地域に出向き、地域住民の声を聞き、住民の生活課題に向き合うことです。地域の課題（ニーズ）に即した取組みだからこそ、地域住民の笑顔と向き合っていく必要があります。

そこで県社協では、「公益的な取組」を推進していくため、社会福祉法人内役職員参加の学習会や、地域の社会福祉法人が集まる情報交換会等でテキストとして活用できる「ヒント集」を作成しました。このヒント集では「どうすればいいの？」「やってみた！」といった職員の声を掲載し、地域の福祉課題との向き合い方や公益的な取組みのプロセスを、わかりやすく〝見せる化〟しています。

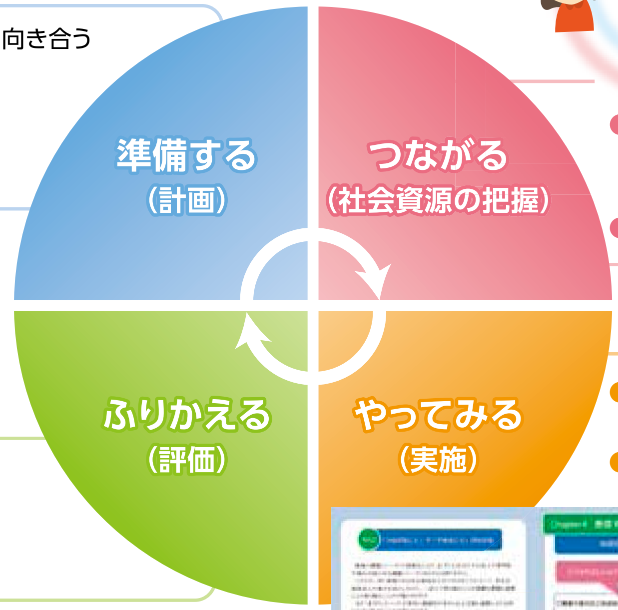
県内の取組事例

- 生活困窮者の就労訓練に向けた取組み（中間的就労支援）
- 子どもの育ちを支援する取組み（地域交流型イベント、居場所づくり等）
- 子ども食堂
- 地域の困りごとへの対応（見守り、配食、雪かき等）
- 買い物支援
- 認知症予防のための健康教室

など

「公益的な取組」の進め方

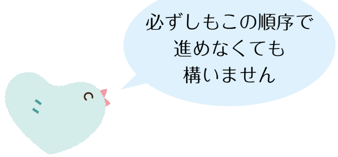
●地域の課題（ニーズ）と向き合う
●法人内に体制をつくる（なぜ取組むのかを全職員が共有する）
●企画する



●地域住民・ボランティア・関係団体等がつながる
➡「できること」が広がる
●自分たちの強みを知る

●地域住民に情報を発信する
●新たなニーズに気づく

●参加者の声を聞く
●見直し、改善する
➡次に活かす



ヒント集

福島県社協の取組み

さらに本会では、県内にある全ての社会福祉法人が、地域の課題に向き合う「公益的な取組」に自ら主体的に取組めるよう、第４期活動推進計画（平成28年度～平成32年度）に［地域課題の解決に向けた社会福祉法人の公益的な取組の推進］を平成30年度より新たに追加し、社会福祉法人経営者協議会、市町村社会福祉協議会連絡協議会と協働し、以下の項目について推進していきます。

［本会活動推進計画の取組］

❶組織的な公益的な取組の推進
❷人材育成の推進（研修・セミナー）
❸社会福祉法人の連携の推進
❹公益的な取組の現状把握、情報提供、情報共有の推進（事例紹介）
❺生計困難者自立支援事業※の実施

※「生活困窮者自立相談支援事業」「地域生活定着支援事業」の支援対象の方に対し、既存の制度では対応できない自立のための支援（緊急的支援・就職準備支援等）。

CHECK

ヒント集や県内社会福祉法人の事例、厚生労働省通知文を本会ホームページでご紹介しています。トップページ「社会福祉法人の公益的な取組」バナーからアクセスしてご覧ください。

福島県社会福祉協議会　検索

事例1

施設職員自らが地域に出向くことで、本当のニーズが見えてくる

社会福祉法人　篤心会

（左）特別養護老人ホーム　ファミーユ
理事・施設長　髙橋壽枝さん
（右）ファミーユ指定居宅介護支援事業所
所長　清野公隆さん

いろんな人と関わることでたくさんの引出しができる

須賀川市、伊達市、玉川村で高齢者施設を運営する社会福祉法人篤心会。今回紹介する特別養護老人ホームファミーユは、伊達市保原町に平成16年オープンした、入居・ショートステイ・デイサービス合わせて定員125名の施設です。

公益的な取組を始めたきっかけは、伊達市保原地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加したこと。「自分たちの施設でも」と、平成28年度から認知症カフェ『喫茶いどばた』を始めました。

ミニ講話ではケアマネジャーや薬剤師、言語聴覚士、理学療法士など毎回様々な専門職の方に来ていただき、暮らしをより豊かにするための情報などについてお話しいただいています。今年度からは毎月開催し、各種専門職の方たちにも参加していただくことで地域のニーズを把握しています。

カフェの運営には、専門職や伊達市社会福祉協議会のほか地域のボランティアも参加しており、自身が認知症という方も加わっています。「認知症になっても支援されるばかりではなく、自らの役割を持つことでいきいきと生活されているように感じています」と、施設長の髙橋さんは開催の意義を話してくれました。

カフェの運営にはボランティアの力が欠かせません

本当に困っている人に手を差しのべられるサービスを

認知症カフェで「家に一人でいることが多い」「施設は介護保険サービスを利用していない人には行きにくい場所」といった声が聞かれたため、地域と施設をつなぐためにできることは何かと職員自らが考え、平成29年8月に『地域サービスいどばた』が始まりました。

これは保原地域を対象に様子確認・安否確認、洗濯、食事、車いす貸出などのサービスを無料～300円で提供するもので、活動には介護職員だけでなく、職種を越えて施設全体で取組んでいます。「この取組みに関わることで、福祉の原点に戻ることができた」と話す職員もおり、改めて地域と施設どちらにとっても必要な取組みであると感じたとファミーユ指定居宅介護支援事業所所長の清野さんはいいます。

気軽に参加できる認知症カフェは月1回開催

昨年度は、栄養失調で救急搬送された精神疾患を抱える一人暮らしの方に対し、退院後、精神障害者保健福祉手帳が発行されるまでの間、自宅を訪問して安否確認をして欲しいとの支援依頼を受けました。そこからNPOと連携した弁当配達サービスの手配や、相談支援事業所へ引き継ぎなどを行ったという事例につながりました。

「今、安心して暮らせる地域にするために必要な支え合いは何かを考えることは、やがて自分たちが高齢者になったときに安心して暮らせる地域づくりにつながるのでは、との思いで活動しています」と清野さん。自治会や他の法人も加わって地域全体で支えられるようになり、10年後にはそれが当たり前になればと、今後の活動の広がりを見据えています。

事例2

それぞれの施設の強み・弱みを知り 連携することで、活動の幅が広がる

社会福祉法人 南相馬市社会福祉協議会

市内8つ全ての法人が参加する連絡会が発足

「南相馬市社会福祉法人 法人間連携による地域における公益的な取組連絡会」では、市内にある8つの社会福祉法人の職員が定期的に集まり、地域の課題について情報交換や学習会を重ねています。連絡会発足のきっかけとなったのは『子どもニコニコ元気塾（以下『元気塾』）』の開催です。平成28年度に、南相馬市社会福祉協議会と福陽会、ちいろば会が「震災の経験から、子育て中の親子が安心して参加できる企画で子どもの育ちを支えたい」と『元気塾』を企画。3法人が連携して取組み3回実施されたこの企画には、延べ100人以上の親子が参加し大好評に終わりました。

連絡会の様子

南相馬市社会福祉協議会では、この取組みが「市内の社会福祉法人それぞれの〝強み〟を活かしたら、地域のためにもっといろんなことができるのでは」という気づきになり、平成29年に市内全ての社会福祉法人に声をかけて職員による学習会、情報交換会をスタートさせました。

それぞれの法人は児童福祉施設や障がい者施設、高齢者施設と種別が異なる施設を運営しているため、これまでほとんど交流がなく、まずはお互いを知ることから始めました。各法人の〝強み〟と〝弱み〟を知るワークショップや、職員が感じている地域の課題を共有する機会を重ね、連絡会の発足へとつながりました。

ほかの法人とのつながり＋それぞれの専門性＝地域での新しい活動

連絡会が発足したことにより、平成29年度の『元気塾』は市内全ての法人が連携して開催することに。歳末たすけあい募金配分事業を活用し、運営には子育て支援に取組むNPO法人やボランティア、地域の方も参加しました。『元気塾』に連携して取組んだことで、その後の連絡会では様々な提案が職員から出されるようになりました。さらには地域課題への気づきを共有することで、色々なアイデアにつながるといった効果を生んでいます。

連絡会に参加している福陽会 北町保育所所長の近藤啓一さんは、「ひとつの法人だけだとアイデアもできることも限られてしまうので、連携はとても大切だと感じています」と話します。

家族で楽しめる内容は好評で、昨年度は延べ150名を超える子どもとその家族が参加しました

当日は「おもちをつきたい！」子どもたちが長い列をつくりました

伸生福祉会 特別養護老人ホーム長寿荘主任主査介護職員の柏倉道子さんからは、「学習会やワークショップのおかげで視野が広がり、職員にも〝地域のために〟という意識が芽生えてきました」との声も。さらに『元気塾』への参加がきっかけで「地域の方々に社会福祉法人のことを知ってもらうことができた」など、連絡会の活動に期待が寄せられています。

南相馬市社会福祉協議会 地域福祉課長の佐藤清彦さんは、「公益的な取組をきっかけに、これからも市内の社会福祉法人と、地域を支えるために共にできることを考えていきたい」と今後の抱負を語ってくれました。

取材協力
社会福祉法人　こころん
西白河郡泉崎村泉崎字下根岸 9
TEL 0248-54-1115

1 **2** からりと晴れたこの日の作業は、レタスの苗の植え付け。利用者たちは土の感触を楽しみながら、ひとつずつ丁寧に植えていきます。
3 収穫された野菜や卵のほか、お菓子などの加工品が並ぶ直売所は地域の方をはじめたくさんの人で賑わいます。

社会福祉法人　こころん

農業と福祉のマッチングで地域の課題に取組む「農福連携」

福祉事業において農業を取り入れる「農福連携」の取組みが近年盛んに行われ、注目を集めています。今回は、そんな「農福連携」に取組み、障がい者の就労の場と地域での居場所づくりを行っている事業所「こころん」をご紹介します。

障がい者と地域をつなぐ就労の場と居場所づくり

福島県南部に位置する泉崎村。緑豊かな農村地域ですが、近年は農業従事者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加が課題となっています。そんな中、障がいを持つ方々がいきいきと農業に取組む福祉事業所があります。

精神障がい者のための就労移行支援や就労継続支援A型・B型の取組みのほか、グループホームを運営する社会福祉法人「こころん」。約100名の利用者のうち約60名が就労しており、10代から50代まで幅広い年齢の方が西白河郡内の自宅やグループホームからそれぞれの就労場所へ通っています。

「各地の福祉事業所を見学し、良い活動のためには地域性を生かすことが大事だと気づきました」と熊田さん

「こころんの目標は、精神障がいを持つ方が地域の中で当たり前に暮らせること。そのためには単なる就労の場だけでなく、地域とつながる居場所をつくることが大切です」と話すのは、施設長の熊田芳江（くまだよしえ）さん。平成16年に地域生活支援センターとしてスタートした後、利用者からの「働きたいけれど仕事がない」「収入を得て経済的に自立したい」という声に応え、農業に関する事業を始めまし

た。地域の農作物を販売・提供する直売カフェを開設し、生産者たちと協力しながら活動するうちに、農業従事者の高齢化や後継者不足といった農業の課題に気づいたといいます。

平成20年頃には、耕作放棄地を活用した農場「こころんファーム」で米や野菜を育て、高齢となった地元の農家から引き継いだ養鶏も始めました。増設した食品加工所「こころん工房」では、卵を使ったオリジナル商品のほか、栃木県那須郡にある森林ノ牧場とのコラボ商品「特別な玉子のプリン」や、那須どうぶつ王国の土産用商品などを製造しています。一部の商品は直売所や近隣のスーパーでも販売しています。近隣の農家や企業とのつながりを大切にすることで、活動の幅が広がってきました。

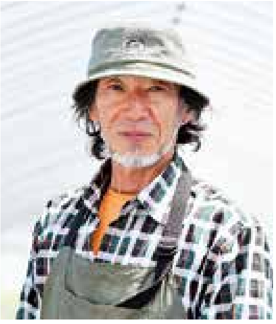
鶏が育つ平飼いの養鶏場は、今年3月にリニューアルしたばかり。6人のスタッフが心を込めて育てています。

やさしい味わいが人気の卵と、森林ノ牧場とコラボした「特別な玉子のプリン」。

農業との連携で見えてきた障がい者就労支援の輝く未来

こころんの農場や養鶏場、工房で働くのは、主に精神障がいを持つ方々です。楽しいと思える仕事を見つけるため、利用者本人の意思を尊重し、それぞれの特性を考慮して仕事の担当を決めています。自分で判断ができない方には、「体験してみませんか」と声かけをしています。一人ひとり理解力や能力が違うため、それぞれに合った支援が必要だといいます。

栽培管理担当の遊佐浩（ゆさひろし）さんは「みんな、一生懸命に心を込めて作物を育てています。自分の役割を果たすことはやりがいにも繋がり、楽しみながら作業をしてくれています」と、農業の魅力について話します。



「利用者に『食べる人の気持ちを考えて育てる』ことの大切さを伝え、自然栽培にこだわっています」と遊佐さん

農業分野の取組みは利用者にいい影響があるようです。作業に取組むうちに、利用者は自分の課題を見つけることができます。丁寧にケアすることによって、自分で課題を解決する力が育っていきます。また、利用者は仕事を通して精神的にも成長でき、毎年数人が一般企業に就職しているのだとか。グループホームを出て自立し、一人暮らしを始める方もいるのだそうです。また、生産と加工・販売を併せて行うことで、一般的な障がい者の就労支援施設よりも高い賃金を生み出せる傾向があるといいます。

障がい者の就労支援において農業を行うことは、働く場所が少なく賃金が低いため、経済的自立が困難という障がい者福祉の課題と、高齢化や後継者不足という農業の課題を互いに補い合うことにつながっています。このように、農業と福祉が連携することで地域の課題を解決する「農福連携」の取組みが近年注目されています。

平成29年には全国農福連携推進協議会が設立され、農福連携に取組む事業所が集まるマルシェやフォーラムなどが多数企画されています。また、同じく平成29年に設立された全国農福連携都道府県ネットワークに福島県も加盟しており、県内でも農福連携を目指す事業所が増えてきました。

直売所内のカフェでは、「気まぐれランチ」や「オムカレー」など、こころんファームや地域の農産物を使ったメニューを提供しています。

「農福連携」について
詳しくはこちらをチェック！
全国農福連携推進協議会
http://noufuku.jp

赤い羽根でささえあい

社会福祉法人福島県共同募金会
〒960-8141 福島市渡利字七社宮111（福島県総合社会福祉センター内）
TEL（024）522-0822　FAX（024）528-1234
●メールアドレス　akaihane@axel.ocn.ne.jp
●ホームページ　http://akaihane-fukushima.or.jp/

地域課題解決型募金　赤い羽根共同募金　NHK歳末たすけあい募金

配分交付式が行われました

寄付者の皆様へ感謝の気持ちを表わすとともに共同募金の使いみちをお知らせするため、4月27日に福島県総合社会福祉センターにおいて「地域課題解決型募金」、「赤い羽根共同募金」、「NHK歳末たすけあい募金」の3つの交付式が行われ、平成29年度の共同募金運動期間中に皆様からお寄せいただいた寄付金が配分される施設・団体が参加しました。

地域課題解決型募金配分交付式では3団体、赤い羽根共同募金配分交付式では73団体に福島県共同募金会の只野裕一会長から配分決定通知書が交付されました。

NHK歳末たすけあい配分交付式では、NHK福島放送局鈴木仁局長と本会 只野会長の挨拶の後、22団体に配分決定通知書が交付されました。

今回は、その中でも、地域課題解決型募金配分交付式で述べられた寄付者の皆様への感謝のメッセージをご紹介します。

▲地域課題解決型募金配分交付式の様子

地域課題解決型配分交付式 感謝のメッセージ

事業内容　**郡部の子育てサークル活動の活性化を目的とした勉強会・交流会開催事業**

特定非営利活動法人
子育て支援コミュニティプチママン（郡山市）
代表　佐藤 広美さん

この度、平成29年度地域課題解決型募金の配分金をいただきました。当団体は、郡山市で「子育てひろば」の運営や、託児付きカルチャー講座の実施、子育てサークルの出張支援などの活動を行っております。平成17年の活動開始以来、郡山市を中心に活動を行ってまいりましたが、その周辺地域の郡部においても子育てサークル活動を活発化させるべく、エントリーをいたしました。団体の活動にご賛同くださり、多くの皆様からのご寄付を頂戴しましたこと、心より感謝申し上げます。

皆様のご厚意は、地域で仲間と、お母さん方が主体となって子育てできる環境づくりを目指して、大切に使わせていただきます。ご支援いただきました皆様に改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

＼共同募金の詳しい使いみちはウェブで公開中！／

赤い羽根募金のつかいみち
赤い羽根データベース
はねっと

「はねっと」とは、「赤い羽根」と「ネットワーク」を組み合わせた造語です。共同募金の使いみちを全国の市町村ごとに一つひとつ紹介しています。

http://hanett.akaihane.or.jp/

福島県共同募金会ホームページ

本会ホームページでは、平成29年度共同募金運動（平成29年10月1日～平成30年3月31日）で県民の皆様からお寄せいただいたご寄付の総額及びその使いみちを公開しています。寄付総額については「共同募金実績報告」を、助成先など使いみちについては「配分情報」をご覧ください。

http://akaihane-fukushima.or.jp/

きらり！ ふくし My スター

福祉の仕事を目指す皆さんへ
先輩の声を届けます

栄養士のお仕事

社会福祉法人みしま
特別養護老人ホーム桐寿苑（三島町）

生江 邦史朗 さん

チームワークを大切に、楽しい食事を提供したい

病院食に触れたことが栄養士になるきっかけ

　高校2年生のときにケガで入院をした際、病院食はおいしくない、というイメージを覆されたのがきっかけとなり栄養士を目指すようになったという生江さん。栄養士の資格を取得できる県外の短大を卒業後、できれば地元に戻って働きたいと思っていたところ、桐寿苑で介護福祉士として働く従兄弟の紹介により施設を見学して就職。今年で3年目を迎えます。生江さんが桐寿苑で働くにあたり、最も魅力を感じているのは利用者との距離が近いということです。「短大の実習では利用者さんが食べているところを見る機会はなかなかありませんでしたが、ここでは食事のときにホールへ行き様子を見ることができます。そこで「今日のこれおいしいね」と話しかけてくれたり、うれしそうに食べていたりする姿を見るともっと頑張ろうと自身の励みにもなります」と笑顔を浮かべます。

　現在の業務は、約60人の利用者の献立を季節や利用者の好みなどを考慮しながら組み立て、食材の発注から調理まで行っています。栄養士が厨房に入り、作り手の気持ちを考え、料理の工程を覚えることも大切なスキルのひとつとのこと。「実際に働いてみると、短大での知識だけでは追いつかず分からないことも多かったです」と生江さん。大量調理をする際に使用する調理器具を調整することや調理スタッフの人数にも配慮しながら工程に負担のない献立を予算内で考えることなどが想像以上に大変でした。しかし苦労した分、「ごちそうさま」「おいしかったよ」と利用者さんから言ってもらえるときが、この仕事のやりがいを感じられる瞬間だといいます。

栄養士は「一人でできる仕事ではない」

　生江さんは利用者さんにおいしい料理を提供したいという思いはもちろんですが、仕事をする上で調理スタッフや介護スタッフとも、もっとコミュニケーションをとっていきたいと思っています。なぜなら栄養士は「一人でできる仕事ではない」ということを実感したからです。厨房でどこか遅れているところがあれば手伝いに行って遅れを取り戻せるように協力する。介護の現場では利用者さんの体調や様子などを聞きながら管理栄養士と相談して献立を考えるなど、チームワークやコミュニケーションがいかに大切かということを経験と共に学んだといいます。そんな真摯に向き合う姿が印象的な生江さんに今後の抱負について尋ねると「メニューがパターン化しないように、新しい食材を取り入れるなど楽しんでもらえる料理を提供していきたい。また管理栄養士の資格を取って仕事の幅をもっと広げていきたい」と前向きな思いを語ってくれました。

利用者さんとのコミュニケーションも大切な仕事のひとつ

職場の上司から

管理栄養士
板橋 八千代さん

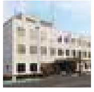
私にはなかった新しい発想が感じられ、刺激をもらっています。決して自分本位というわけではなく、こう思ったものはやり通したいという自分の芯を持って仕事に取り組んでいると感じます。これからは利用者さんと楽しく触れ合いながら、個々に合った食事や栄養管理ができるような栄養士になってほしいと思っています。

いいね!

@kenshakyo

facebook もチェック
県社協フェイスブックでも、本会事業を紹介しておりますので、ご覧ください!

社会福祉法人
福島県社会福祉協議会



95枚の写真
～ふくしまボランティアフェスティバル 20回の歴史～

地域福祉課　今関 稔子

県内で活動するボランティアの皆さんが年に一度、一同に会する大イベント！

それが**「ふくしまボランティアフェスティバル」**です。

昨年度、ボランティアフェスティバルは皆さんに支えられて記念すべき第20回を迎えました。せっかくの20回の節目をどんな形でお伝えしようか、と職員がいろいろと話し合う中、「やっぱり主役はボランティアさんだよね」ということになり、20回の歴史をボランティア活動の写真で振り返ることに決定！

早速、県内市町村社会福祉協議会ボランティアセンターの皆さんに呼びかけ、たくさんの写真を提供いただきました（本当に皆さんありがとうございました！）。

点字サークルひよこ（平成7年 会津若松市）

ところが、デジタルカメラの普及により、ある年代からの写真はたくさんあるのに、15年～20年前の写真がなかなか見つからない……。県社協の倉庫を探しても見つからない……困ったな。と思っていたところ、救世主現る！「本宮市ボランティア連絡協議会 創立20周年記念誌」が「見つからない時代」をつないでくれたのです。

いよいよ、当日のオープニングイベント。サロン活動、配食サービス、サマーショートボランティアスクール、手話サークル、施設ボランティア、東日本大震災の災害支援ボランティア……。95枚の写真が時代と共に映し出されました。参加者の皆さんも写真と共に自身を振り返り、懐かしんだり、涙ぐんだり……。

たくさんの笑顔、真剣なまなざし、感動の涙、ボランティアはいつも地域と共にありました。これからも地域を見つめ、地域を創るボランティアの皆さんと社会福祉協議会は共にありたいと思います。

第21回ふくしまボランティアフェスティバルは8月4日㈯パルセいいざか（福島市）で開催します！みなさんの参加を心よりお待ちしています！

年齢を重ねても介護のお世話にならない体でいるための体操をご紹介していきます。

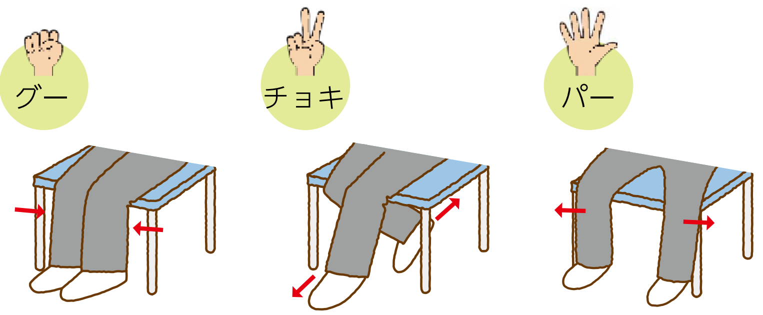
元気な体いつまでも！
介護予防体操

一般社団法人
ふくしまをリハビリで元気にする会
理事長　岡本 宏二（作業療法士）
※監修　中條 達也（音楽講師）

グー・チョキ・パー体操

いすに座り、手と足でグー・チョキ・パーの動きを同時に行う体操です。
リズムよく、順序良く行うことで、認知症の予防になりますよ。

足のグー・チョキ・パー



足を閉じる

右足を引いて同時に左足を出す

足を開く

ステップ1
グー・チョキ・パーの順番通りにやってみましょう。

ステップ2
手が足にジャンケンで勝つように順番を変えてみましょう。

ステップ3
三拍子の歌を歌いながらやってみましょう（グー・チョキ・パーの最後に拍手などを加えると、四拍子の歌でもできます）。

はじめはゆっくり、慣れてきたら左右の手で違う動きをするなど、アレンジしてみましょう。

「痛くない・怖くない・無理しない・楽に・楽しく・満足に」を合言葉に

第21回福島県介護支援専門員実務研修受講試験のご案内

1. 試験日時
平成30年10月14日㈰　午前10時開始

2. 試験会場
福島市・郡山市・いわき市

3. 受験手数料及び試験問題作成手数料
8,050円

4. 受験資格
保健・医療・福祉分野で通算5年以上かつ900日以上の実務経験を有する方

※詳細は「受験案内」で確認してください。

5. 申込期間
平成30年6月1日㈮
～平成30年6月29日㈮　※当日消印有効

6. 受験案内の配付について
⑴配付期間：平成30年5月28日㈪～平成30年6月28日㈭

⑵配付方法：受験案内を希望する方は、**『返信用封筒』に宛先を明記し希望冊数に応じた切手を貼付**したうえで、下記お問い合わせ先までお送りください。

※1　**窓口での配付は一切いたしません。**

※2　返信用封筒表面左下に「ケアマネ試験受験案内○○冊希望」と必ず**希望冊数を明記してください。**

※3　速達での送付を希望する場合は、返信用封筒表面に朱書きで「速達」と明記してください。

希望冊数	返信用封筒のサイズ	返信用封筒に貼付する切手の金額
1冊	A4サイズ（角型2号）	250円（速達は530円）
2～3冊		380円（速達は760円）
4～5冊		570円（速達は950円）
6冊以上	ゆうパック等の**着払い伝票**に必要事項を記入して送付してください（返信用封筒は不要）。なお、必ず希望冊数を明記してください。	

お問い合わせ先　福島県社会福祉協議会　人材研修課　〒960-8141　福島市渡利字七社宮111番地
TEL 024-521-5662　FAX 024-521-5663　HP http://www.fukushimakenshakyo.or.jp

「平成30年度 第1回 福祉の職場 合同就職説明会」のご案内

県内最大級　入場無料　予約不要

高齢・障がい・児童の施設が多数参加します！お気軽にご参加下さい！

スタンプラリー開催！

参加対象
社会福祉施設等に就職を希望する方
福祉の仕事に関心のある方
福祉の職場、資格などについて知りたい方

日時・会場
時間帯は各会場共通：午後12時40分～午後4時

福島会場 7月14日㈯	ホテル福島グリーンパレス 福島市太田町13-53
会津会場 7月21日㈯	会津若松ワシントンホテル 会津若松市白虎町201
いわき会場 7月28日㈯	いわき産業創造館（LATOV） いわき市平字田町120
郡山会場 7月29日㈰	ビッグパレットふくしま 郡山市南二丁目52

時　間	内　容
午後12時40分～午後1時10分	Ⅰ 就職体験談 「伝えたい！福祉の仕事の魅力 ～職員からのメッセージ～」
午後1時10分～午後1時50分	Ⅱ 施設・事業所PR 「参加施設・事業所が 福祉の職場 仕事の魅力をPR！」
午後2時～午後4時	Ⅲ 合同面接会 ●施設面談コーナー　●ハローワークコーナー　●介護労働安定センター相談コーナー　●福祉人材センター相談コーナー　●保育士・保育所支援センター相談コーナー　●母子家庭等就業・自立支援センター相談コーナー

お問い合わせ先　福島県社会福祉協議会　人材研修課　TEL 024-526-0045
ホームページもご覧ください！(http://www.fukushimakenshakyo.or.jp)

発行・企画編集 社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
TEL(024)523-1251(代) FAX(024)523-4477
URL http://www.fukushimakenshakyo.or.jp
メール heartful@fukushimakenshakyo.or.jp

クロスワードにチャレンジ！

正解者から抽選で3名に「手作りクッキー&豆かりんとう 詰め合わせ」が当たる！

今月の正解者の中から抽選で3名様に、就労継続支援B型事業所でんでんむし（田村市）の「手作りクッキー&豆かりんとう　詰め合わせ」をプレゼントいたします。なお、当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

1	6	■	11		16 [E]	20
2 [D]		9		■	17	
	■	10 [B]		14		■
3	7		■	15		21
■	8		12	[C]	■	
4		■	13		18	[A]
5	[F]			■	19	

●全部できたら二重ワクの文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。

応募方法 ハガキにパズルの答えと　①住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、業種　②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望 を全てご記入の上、下記までご応募ください。

締切 平成30年7月13日㈮

宛先 〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
「はあとふる・ふくしまパズル係」

※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。
※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。

➡ヨコのカギ

❶ 貧乏○○無し
❷ トランプなどで最も強いカードのこと
❸ 隠語で「デカ」と呼ばれる職業
❹ 九谷焼や友禅、金箔で知られる北陸にあった藩
❺「MAJOR」「タッチ」「ドカベン」は何のマンガ？
❽ ⇔本音
❿「スィーーーッチョン」と鳴く虫
⓫「ＪＲ」は民営化される前は何と呼ばれてた？
⓭ ブックボックス
⓯ キール、パナマ、スエズ……
⓱ コレが分からない時には辞書を引きます
⓳ 極めて詳しいこと。ワイン○○、情報○○、食○○

⬇タテのカギ

❶ 勝負で勝敗がつかないこと
❹ 家の屋根をふくのに使う植物
❻ 山寺の和尚さんが○○は蹴りたし○○は無し
❼「○○○○死すとも自由は死せず」
❾ 将棋や碁で日をまたいで対局を行うときに行います
⓫「ヤッホー！」「ヤッホー！」←コレ
⓬ サリー、メグ、ミンキーモモ、キキ等が使います
⓮「フレー、フレー」「ガンバレ!」「日本チャチャチャ」
⓰ 乗り物・会場などの収容人数
⓲ ドストエフスキーの長編小説「タテ⑳と○○」
⓴ ドストエフスキーの長編小説「○○とタテ⑱」
㉑ 地図記号は「文」「㊫」

A	B	C	D	E	F

4・5月号の正解「天栄村（テンエイムラ）」
多数のご応募ありがとうございました。

発行日／平成30年6月15日　制作・印刷／(株)日進堂印刷所
※本誌に掲載の記事・写真・イラストの無断転載・複製を禁じます。

一歩ふみ出す　お手伝い　相談無料

福祉の求人、求職は福祉人材センターへ

7月の「福祉の仕事相談会」

相談受付時間 午前10時～午後3時（全会場共通）

4日(水)	11日(水)	19日(木)	23日(月)
会津若松市 社会福祉協議会	いわき市 社会福祉センター	南相馬市 原町区福祉会館	郡山市 総合福祉センター

県社協 人材研修課 福祉人材センター／メール jinzai@fukushimakenshakyo.or.jp
TEL(024)521-5662　FAX(024)521-5663

★ネット紹介システム（インターネット求人登録）は、
http://www.fukushimakenshakyo.or.jp の福祉人材研修センターホームページからアクセス!

ひとり親家庭の就労を応援します
母子家庭等就業・自立支援センター

7月の「就職相談会」

予約優先
相談受付時間 午前10時～午後3時（全会場共通）

12日(木)	21日(土)
南相馬市 相双保健福祉事務所	福島市 コラッセふくしま

●随時、お仕事の相談を無料で受け付けております。上記以外の地域でも相談会を開催しておりますので、お気軽にご連絡ください。

県社協　人材研修課　母子家庭等就業・自立支援センター
TEL(024)521-5699　FAX(024)521-5663
メール boshi@fukushimakenshakyo.or.jp

3月号への読者のおたより

・私の住む町でも、傾聴ボランティアの活動を立ち上げられればいいと思いました。（69歳　ホームヘルパー）

・富岡町の避難者支援についての特集を読み、さまざまな課題に取組む富岡町の方々を心から応援したくなりました。（76歳　女性）

・介護予防体操は歌いながら手軽にできていいですね。（61歳　臨時職員）

・クロスワードは息抜きになり、毎回楽しみです。（65歳　女性）

・良い企画が載っているので、福祉関係者以外の方にも読んでもらいたいです。（44歳　福祉関係）

・自分が高齢者になっても「みみネットはなわ」のような温かいサービスがあると嬉しいですね。（31歳　主婦）

編集後記

今回初めて取材の現場に同行して、職員の方が大切にされている思いや福祉にかける情熱を生で聞かせていただきました。地域で人を支えあえるよう、誰もが住みやすい町を本気で作るために挑戦している姿勢に胸を打たれました。これからも取材を通じて、その思いや情熱を学んでいきたいと強く思いました。（地域福祉課　丹治陽平）

福島県高齢者総合相談センター
認知症コールセンター

平成29年度の相談状況

高齢者総合相談センター

高齢者総合相談センターでは、高齢者やその家族からの相談に、各関係機関と連携しながら助言などをおこなっています。また、遠隔地に居住する方のために巡回相談会を実施しています。

平成29年度の相談件数は859件で、前年度より110件の増加となりました。年齢別にみると、70代が41・1％と最も多く、次に60代が27・8％、80歳以上が11・4％となっています。また、40歳未満の方からの相談も1・4％ありました。

内容別にみると、「家族・家庭」に関することが最も多く435件で50・6％を占めており、老後の不安、介護の負担、家族間の折り合いなどに関することが多くなっています。

次に多いのが「法律」に関することで、253件で29・5％となっており、相続や金銭貸借、財産・金銭の管理などに関することが多くなっています。

次が「福祉サービス」に関することで、111件で13％となっており、福祉施設の情報がほしい、介護サービスの内容に関することなどが多くありました。

その他、「経済・生活」は収入が少なくて生活できない、入院したが家の管理をどのようにしたらいいかわからない、「保険・医療」は医師にきちんと話をきいてほしい、などの内容でした。

高齢者総合相談センターでは、電話か来所にて相談に応じています（詳細は裏面）。お気軽にご相談ください。

表１　相談者の年齢別件数

年　齢	件　数	構成比（％）
40歳未満	12	1.4
40～49歳	21	2.5
50～59歳	92	10.7
60～69歳	239	27.8
70～79歳	353	41.1
80歳以上	98	11.4
不　詳	44	5.1
合　計	**859**	**100**

表２　内容別相談件数

相談内容	件　数	構成比（％）
家族・家庭	435	50.6
法律	253	29.5
経済・生活	38	4.4
福祉サービス	111	13.0
保健・医療	19	2.2
生きがいづくり	3	0.3
合　計	**859**	**100**

高齢者相談センターの相談事例

★身寄りがなくて突然亡くなったときや病院に入院した時に心配です。亡くなった場合はお墓を役所で管理してくれるのでしょうか？

★私の息子は軽い精神障害があり、ギャンブル依存症です。ずっと息子の世話をすることはできません。息子の金銭管理はどうすればいいでしょうか？

★私たち夫婦には子どもがおりませんが、これから介護や葬儀など心配なので、今から備えておくことがあれば教えてください。

認知症コールセンター

認知症の本人や家族が気軽に相談できるよう、専用電話「認知症コールセンター（認知症ほっと電話相談）」を開設しています。本人や家族の精神的支援を行うとともに介護者の孤立を防ぐため、認知症介護の経験のある相談員が相談に応じています。

平成29度の相談件数は３３７件、このほか面接相談が12件で、全部で３４９件でした。

そのうち本人からの相談は17件、家族からが３０８件でした。年齢別では、60歳代が１８４件で52・７％と半数以上で最も多くなっています。

表　認知症コールセンター相談内容（複数カウント）

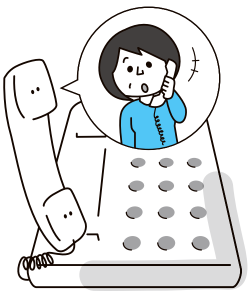
相談内容	件　数
症状・対応の方法	114
家族関係	32
本人・家族の心身の問題	77
介護保険関係	49
経済的問題・成年後見制度関係	15
医療関係（受診・入院・紹介）	89
苦　情	7
その他	210
合　計	**593**

相談内容は、認知症が疑われる家族への対処方法、家族としての向き合い方、受診を嫌がる家族に対する接し方など認知症に関する様々な問題を抱える家族からの相談など、相談件数・年齢などをみても認知症を抱えるご家族の方からの相談が多く寄せられています。

認知症コールセンターの相談事例

★認知症と診断された夫は、私の言うことなど聞かず、毎日困り果てています。とにかく車の運転をやめさせたいのですが、どうすればいいでしょうか。

★85歳と80歳の認知症の祖父母と同居しています。仕事も子育てもしているので、とても疲れてしまいました。親も親戚も介護に携わってくれず、どうしたらいいのでしょうか。



高齢者総合相談センターからのお知らせ

7月・8月の相談日のお知らせ

相談種別	相談員	相談日 7月		相談日 8月	時間
法律相談	弁護士	火	3日・10日 17日・31日	7日・21日・28日	午後1時30分～ 午後3時30分 ※要予約
一般相談	センター相談員	月曜日～金曜日 ※土日祝日は除く			午前9時～午後5時

相談は**無料**です。電話または面接により対応します。

巡回相談会のお知らせ

開催月日	開催場所
7月　4日㈬	会津坂下町保健福祉センター
7月18日㈬	川俣町老人福祉センターいきいき荘
7月26日㈭	泉崎村保健福祉総合センター
8月　7日㈫	矢吹町保健福祉センター
8月29日㈬	三春町福祉会館
時間	一般相談　午前10時30分～午後3時 法律相談　午後1時～午後3時 ※要予約

相談・予約先　県社協　いきいき長寿課　高齢者総合相談センター
〒960-8141 福島市渡利字七社宮111番地（福島県総合社会福祉センター3階）TEL (024)524-2225

認知症コールセンターからのお知らせ

電話相談	月曜日～金曜日　午前10時～午後4時
面談相談	月2回（第2木曜日、第4金曜日）　午後1時～午後4時 ※要予約

相談は**無料**です。どなたでもご相談ください。※土日祝日は除く

相談・予約先
県社協 いきいき長寿課
認知症コールセンター
TEL (024)522-1122

発行：平成30年6月15日　社会福祉法人福島県社会福祉協議会 いきいき長寿課